

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 36週 > 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は減少し続けているが、過去5年間の同時期と比較して未だかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 >
2003年の報告数は過去4年間と比べて比較的少なく推移しており、第34週には大幅に増加したが、第36週では減少した



病原体情報
P.5-6

患者から分離・検出された病原体報告 - ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス / 流行性角結膜炎患者から分離されているウイルス / 咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス



速報
P.7-9

高校の運動部寮で発生したアデノウイルス7型の集団感染 - 岡山県 / アデノウイルス分離状況、2002~2003年 - 大阪府



海外感染症情報
P.10-11

ウエストナイルウイルスによるヒト患者数 - 米国、カナダ / シンガポールでの重症急性呼吸器症候群(SARS) / 米国フロリダのPalm beach郡での局地的なマラリア発生



感染症の話
P.12-15

< 百日咳 >
特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症で、いずれの年齢でもかかるが、小児が中心となる



読者のコーナー
P.16



グラフ総覧(36週)
P.17-23



36週のデータ
P.24-32



発生動向総覧

第36週コメント 9月11日集計分

全数報告の感染症

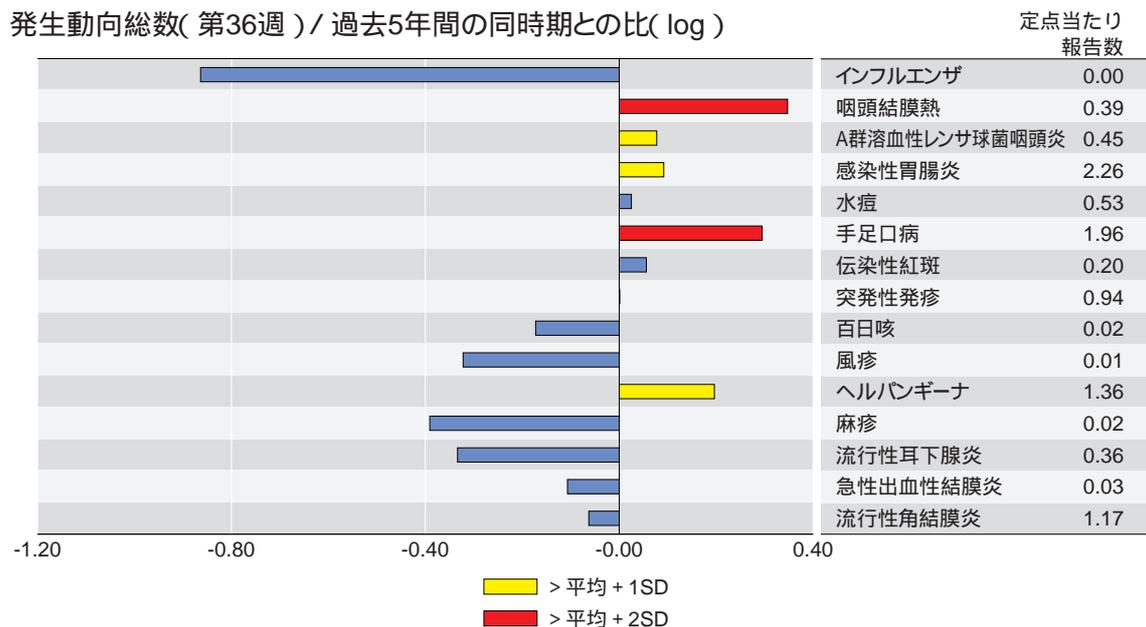
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢 8例(推定感染地域: 国内1例、インド6例、ミャンマー1例)
腸チフス 1例(推定感染地域: 不明)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 120例(うち有症者85例)
報告の多い都道府県: 大阪府16例、兵庫県13例、石川県9例、福岡県8例
血清型・毒素型: O157 VT2(43例)、O157 VT1・VT2(31例)、O26 VT1(21例)
その他(25例)
年齢: 10歳未満(62例)、10代(7例)、20代(18例)、30代(14例)、40代(3例)、
50代(4例)、60代(7例)、70歳以上(5例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢 5例(推定感染地域: 国内4例、シンガポール1例)
急性ウイルス性肝炎 3例 A型1例(推定感染地域: 国内)
B型2例(推定感染経路: 性的接触1例、家庭内水平感染1例)
後天性免疫不全症候群 8例(AIDS 2例、無症候6例) 男性/女性: 6例/2例
推定感染経路: 性的接触7例(異性間3例、同性間4例)、不明1例
推定感染地域: 国内8例
ジアルジア症 1例(推定感染地域: 不明)
髄膜炎菌性髄膜炎 1例(推定感染地域: 国内)
デング熱 1例(推定感染地域: タイ)
日本紅斑熱 2例(徳島県1例、高知県1例)
梅毒 7例(早期顕症I期3例、早期顕症II期3例、無症候1例)
破傷風 1例(85歳)
レジオネラ症 3例(48歳、52歳、69歳)

訂正: 前週(第35週)の日本紅斑熱の報告で、「愛媛県では19年ぶりの発生」と記載しましたが、正しくは「愛媛県では初の報告」でした。

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第36週)/過去5年間の同時期との比(log)

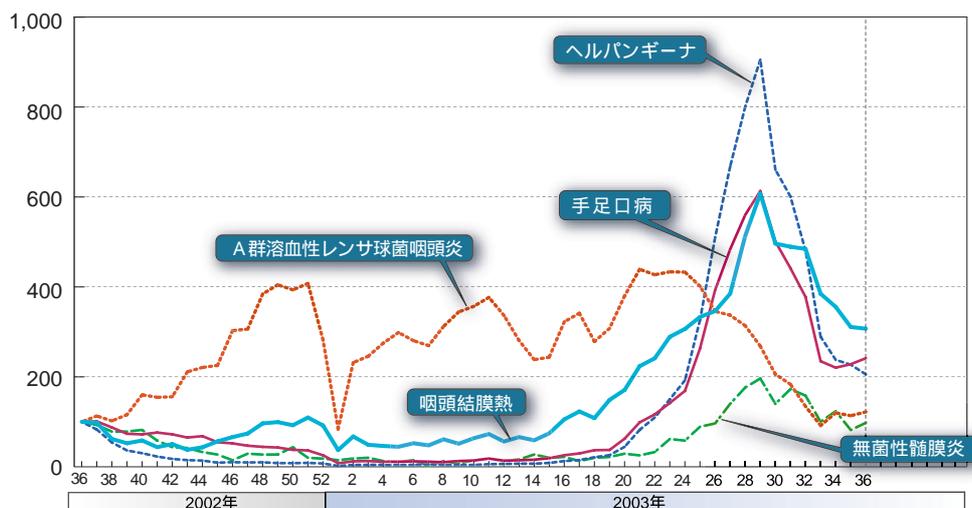


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

小児科定点報告疾患: 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は減少し続けているが、過去10年間の当該週と比較して第16週以降最高の値となっている。過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較しても未だかなり多く、都道府県別では前週より増加したところもあり、滋賀県(1.8)、高知県(1.4)、長野県(1.2)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第24週から10週間連続して減少した後、34週は増加、35週は微減、今週は再び微増し増加傾向が認められる。過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では山形県(1.2)、鳥取県(1.2)、宮崎県(1.1)が多い。感染性胃腸炎は微増し、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では鳥取県(5.3)、富山県(4.2)、宮崎県(4.2)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後5週間連続して減少した後、前週、今週と2週続けて微増した。過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では青森県(6.1)、岩手県(5.6)、長野県(4.9)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は減少し続けているが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県(4.5)、長野県(4.0)、新潟県(3.9)が多い。

基幹定点報告疾患: 無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は微増して0.11で、都道府県別では福井県(1.2)、栃木県(0.7)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加して0.25で、本年は過去4年間に比し高く推移してきたが、第31週以降は昨年、一昨年と大差のない値となっている。都道府県別では山形県(1.3)、岡山県(1.0)、大阪府(0.7)、宮崎県(0.7)が多い。

主要疾患の過去1年間の週別定点当たり報告数の動き(第36週)



2002年第36週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、過去1年間の増減を表している。

 訂正: 第35週掲載のグラフ中で疾患名のラベルが間違っておりました。ホームページHTML版にて正しいグラフに修正しています。



注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症

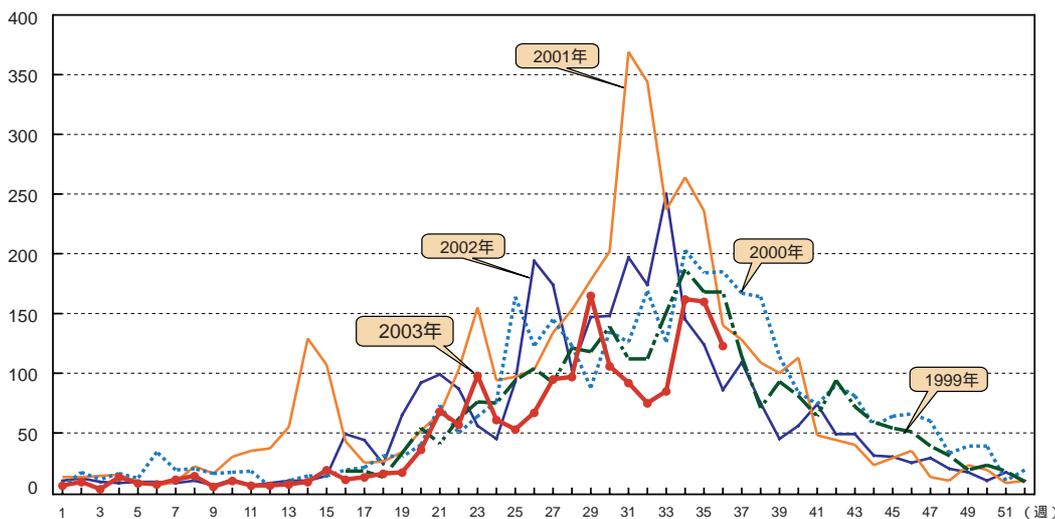
2003年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、過去4年間と比べて比較的少なく推移してきた(図)。特に第31～33週は通常報告数が多い時期であるが、本年の報告数は各週とも100例に満たず、少なかった。第34週には大幅に増加し、第35週にはほとんど不変であったが、第36週では減少した。

第36週の報告数は今のところ120例で(昨年同時期は79例) 性別では男性57例、女性63例であった。うち有症者は85例で、報告例全体の71%であった。都道府県別では多い順に大阪府16例、兵庫県13例などであった。5歳毎の年齢階級別にみると0歳、1～4歳、70歳以上は別扱い) 1～4歳38例、5～9歳21例、30～34歳12例と、1～4歳の報告数が多かった。これは保育所、幼稚園関連の症例が多かったためと思われる。

血清型についてはO157が78例、O26が23例であった。血清型とベロ毒素の型の組み合わせでは多い順にO157 VT2が43例、O157 VT1・VT2が31例、O26 VT1が21例などとなっている。2003年の第36週までの累積報告数は1,785例(昨年同時期は2,492例) となっており、昨年よりは少ないものの、集団発生の報告が続いていることから、依然として注意を要する。

今年に入って、死亡例(届け出時点)は2例が報告されており、第36週には溶血性尿毒症症候群(HUS)の事例が1例(9歳)報告されている。

図 . 腸管出血性大腸菌感染症の週別報告数 (1999年4月～現在まで)





病原体情報

* グラフはIASRホームページ <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2003年9月12日現在報告分)

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2003年

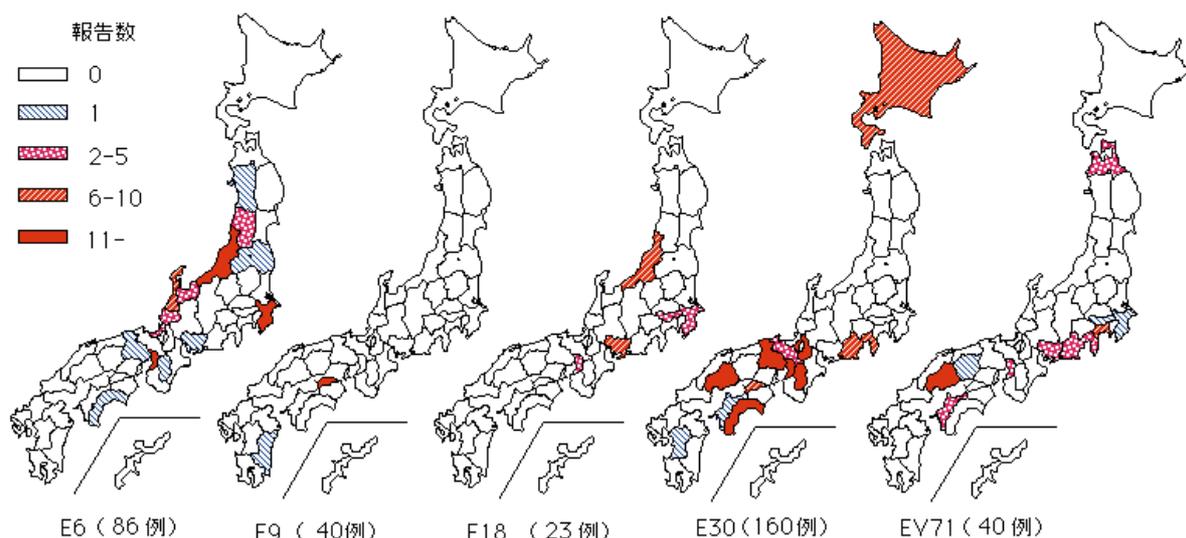
検出総数は474件で、うちO157が334件、O26が106件、その他の血清型が34件報告されている。最近では、O157が第34週に岩手県3件(すべてVT1&2)、奈良県3件(VT2が2件、VT1&VT2が1件)、第35週に岩手県2件(いずれもVT1&2)、O26が第34週に岩手県2件(いずれもVT1)、宮城県1件(VT1)、O103が第35週に岩手県1件(VT1)で、いずれも散発または家族内発生事例からの検出報告である。

無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス 2003年

エンテロウイルス71型(EV71)が40件(広島県11、神奈川県10、愛知県5、大阪府5など10都府県)、エコーウイルス(E)が317件(30型160、6型86、9型40、18型23、7型5、16型2、13型1)報告されている。E30は近畿地方を中心に大阪府50、奈良県23、高知県17など12道府県から報告されている。E6は大阪府36、新潟県17、千葉県12など13府県から報告されている。E9は香川県39、宮崎県1、E18は新潟県6、愛知県6、千葉県4、東京都4、大阪府3から報告されている。その他、B群コクサッキーウイルスが49件(1型20、2型15、5型9、4型3、3型2)、ムンプスウイルスが16件、A群コクサッキーウイルスが9件(9型3、16型2、2型1、4型1、6型1、12型1)報告されている。

都道府県別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス検出報告状況, 2003年

(病原微生物検出情報: 2003年9月12日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



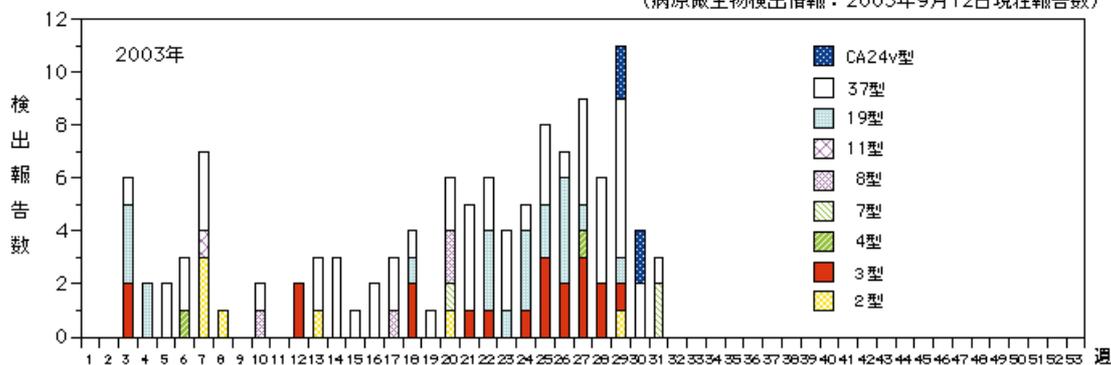
Infectious Agents Surveillance Report

流行性角結膜炎患者から分離されているウイルス 2003年

アデノウイルス37型(Ad37)が54件(熊本県30、北海道8、長野県5、愛知県5など)と最も多く、年初より夏季にかけて分離が報告されている。次いでAd19が21件(山形県7、熊本県6など)、Ad3が20件(香川県12、熊本県3など)で、いずれも夏季を中心に分離が報告されている。この他にAd2が7件(大阪府5、北海道1、高知県1)、Ad8が4件(北海道、神奈川県、大阪府、熊本県各1)、Ad7が3件(大阪府2、福岡県1)、Ad4が2件(北海道2)、Ad11が1件(熊本県1)報告されている。また、第29、30週にA群コクサッキーウイルス24型変異株(CA24v)が熊本県から4件報告されている。CA24vは1998年9月以来の分離報告である。

週別流行性角結膜炎患者からのアデノウイルス等分離報告数、2003年

(病原微生物検出情報: 2003年9月12日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2003年

アデノウイルス3型(Ad3)が77件(三重県19、大阪府18(本号速報記事参照)、愛知県6、広島県6など)で最も多く、次いでAd2が36件(大阪府7、長野県6、広島県5など)、Ad1が16件(三重県3、大阪府、広島市、徳島県各2など)報告されている。その他にAd5が10件(三重県3など)、Ad7が9件(北九州市9)、Ad4が3件(大阪府、岡山県、鹿児島県各1)、Ad6が1件(島根県)、Ad37が1件(広島県)報告されている。



高校の運動部寮で発生したアデノウイルス7型の集団感染 - 岡山県

アデノウイルス7型(Ad7)はB亜属に分類されるアデノウイルスで、同じ亜属のAd3と同様に結膜、咽頭、肺、腸管等多くの臓器で増殖するため、多様な臨床症状を引き起こす。中でも心肺に基礎疾患を持つ小児では致命的肺炎を起こす場合があり、注意を要するウイルスである。病原微生物検出情報におけるAd7の分離報告株数は1995年以後急増し、1996～1998年は年間200～300に達していたが、1999年以降は年間10～70程度に減少した。岡山県でも1996年、1998～1999年には2～5株のAd7が分離されていたが、2000年以降は年間0～1株の分離にとどまっていた。2003年、岡山県では全国的な咽頭結膜熱患者の増加を受けてアデノウイルスの流行状況に注意を払っていたところ、7月に高校の運動部寮におけるAd7感染症の集団発生を経験したので、その概要を報告する。

2003年7月5日、県南部のA市内の1医療機関から所管保健所に対し、「B高校野球部の寮生4名、コーチ1名が発熱・嘔吐・下痢等の症状で入院した」との通報があり、調査が開始された。その結果、寮生等41名(寮生38名、監督・コーチ3名)のうち12名(寮生11名、コーチ1名)が不調を訴えて医療機関を受診し、5名が入院したことが判明した。病原検索は、7月7日(第4～9病日)に採取された入院有症者5名の咽頭ぬぐい液について、培養細胞(FL、RD-18S、Vero)によるウイルス分離を実施した。その結果、寮生4名(第4、6、7、および第9病日)からFL細胞のみでAd7が分離された。有症者12名の主な症状は、発熱(39以上:5名、37台:5名)、頭痛(6名)、咽頭痛(4名)、下痢(3名)、軟便(1名)であった。入院有症者では検体採取時も発熱が続いており、遷延傾向が認められた。症状について、病原微生物検出情報で報告された過去のAd7感染症例^{1)・2)・3)}と比較すると、「遷延する高熱」と「咽頭痛」が共通しており、「胃腸炎症状」の頻度が比較的高い点も類似していた。以上より、本事例はAd7による集団感染と推定された。

本事例の発生地近隣のC市にある感染症発生動向調査検査定点で、6月17日に採取された患者咽頭ぬぐい液1検体からAd7が分離されており、同地域にAd7が侵入していたことが確認されている。また、やや古いデータであるが、平成8年(1996年)度に岡山県内で実施したAd7の血清疫学調査⁴⁾によれば、40歳以下では抗Ad7中和抗体保有率は2.2～6.7%ときわめて低く、その後も県内でAd7の広範な流行は見られなかったことから、青少年層の抗体保有率は低いままであると推定される。したがって、本事例は、地域から寮内に持ち込まれたAd7が、抗体を保有していない寮生の間で集団感染を引き起こした事例と考えられた。

Ad7感染症は、日本では小児の感染症として注目されているが、米国では軍隊の新兵における集団感染事例がしばしば発生している。一般にアデノウイルスは糞便中に長期にわたり排泄されることが知られており、Ad7が抗体保有率の低い青少年の集団に侵入すると、感染が大規模化・長期化するおそれもあるので、十分な注意が必要である。

おわりに、本稿をまとめるにあたりご協力いただいた保健所関係各位に深謝します。

【参考文献】

- 1) 渡辺由香里他: Ad7による急性呼吸器疾患の集団発生事例、IASR Vol.17、101-102、1996
- 2) 沢田春美他: Ad7による急性呼吸器疾患、IASR Vol.18、82、1997
- 3) 横田陽子他: 小学校でのAd7の流行、IASR Vol.19、78-79、1998
- 4) 濱野雅子他: 岡山県におけるAd7に対する中和抗体保有調査(平成8年度岡山県血清疫学調査) 岡山県環境保健センター年報、Vol.22、16-19、1998

岡山県環境保健センター

濱野雅子 葛谷光隆 藤井理津志 西島倫子 小倉 肇

(IASR2003年10月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

アデノウイルス分離状況、2002～2003年 - 大阪府

小児科・基幹定点から分離されたアデノウイルス、2003年

2003年1月以降に大阪府小児科・基幹定点から分離されたアデノウイルスについて述べる。ウイルス分離にはHEp-2細胞、Vero細胞を用い、同定は中和試験で行った。合計33株のアデノウイルスが分離され、その内訳はアデノウイルス3型が19株、2型が9株、1型が4株、5型が1株であった。アデノウイルス2型、3型は1～6月のいずれの月にも分離されているが、3型は6月に増加傾向を示し、2003年の大阪での夏季の咽頭結膜熱はアデノウイルス3型が主流であると思われた。

アデノウイルスが分離されたこれらの患者の臨床診断名は、咽頭結膜熱が24例(うち2例は肺炎を伴う)、インフルエンザが5例、急性脳炎が2例、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎が各1例であった。急性脳炎2例からアデノウイルスが分離されているが、検体の由来が便および結膜であり、かつ髄液および咽頭ぬぐい液はウイルス分離陰性のため、脳炎の直接的な原因とは考えにくい。無菌性髄膜炎の1例も結膜炎症状を伴っており、髄液の検査は実施していないため、アデノウイルスを起因ウイルスと断定できない。しかしながら、中枢神経系疾患に関連してアデノウイルスが3例分離されていることは、アデノウイルスと中枢神経系疾患に何らかの関連があることを示唆しているのかも知れない。

三島地区眼科定点から分離されたアデノウイルス、2002年4月～2003年6月

2002年4月～2003年6月までに、大阪府三島地区の2病院において流行性角結膜炎と診断された患者から分離されたアデノウイルスについて述べる。ウイルス分離にはHEp-2細胞を用い、同定は中和試験によって行った。

分離されたアデノウイルスは、時間的な経過の中で集積性が認められた。すなわち、2002年4～6月はアデノウイルス4型と19型で、2002年11月はアデノウイルス3型、2003年2～3月はアデノウイルス2型、2003年5～6月はアデノウイルス37型であった。アデノウイルス8型は2002年5月と2003年5月に検出され、集積性はなかった。アデノウイルス2型、3型分離例では、上気道炎や胃腸炎症状を伴う症例が57%(4/7)にみられた。

この地区では、血清型の異なったアデノウイルスの時間的集積性が認められたが、このことが眼科領域におけるアデノウイルスの流行に反映しているかどうか、あるいはその他の疫学的事象と関連しているかどうかは不明であり、継続的な調査が必要である。

大阪府立公衆衛生研究所・ウイルス課 加瀬哲男 森川佐依子 宮川広実

(IASR2003年10月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ウエストナイルウイルスによるヒト患者数 - 米国、カナダ

CDC 9月19日、ヘルスカナダ 9月19日

州	ヒト患者数	死亡者数
アラバマ	21	3
アリゾナ	1	
アーカンソー	5	
コロラド	1,542	27
コネチカット	6	
フロリダ	32	
ジョージア	11	1
イリノイ	8	
インディアナ	6	
アイオワ	38	2
カンザス	24	1
ケンタッキー	6	
ルイジアナ	52	1
メリーランド	17	
マサチューセッツ	1	
ミネソタ	67	2
ミシシッピ	48	1
ミズーリ	20	1
モンタナ	154	1
ネブラスカ	632	11
ニューハンプシャー	1	
ニュージャージー	7	1
ニューメキシコ	135	4
ニューヨーク	28	3
ノースカロライナ	14	
ノースダコタ	126	
オハイオ	30	4
オクラホマ	34	
ペンシルバニア	72	
ロードアイランド	1	
サウスカロライナ	1	
サウスダコタ	675	7
テネシー	7	
テキサス	292	7
バージニア	6	
ウィスコンシン	7	
ワイオミング	289	7
合計	4,416	84

4,246例の解析にて、61%はウエストナイル熱、29%はウエストナイル髄膜炎/脳炎、10%は不明。

(米国CDCホームページ <http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm> より)

州	陽性疑い患者数*	陽性確定患者数	死亡者数
ノバスコシア	0	1 [^]	0
ケベック	8	0	0
オンタリオ	44	1 [^]	0 ^{^^}
マニトバ	43	2	1
サスカチュワン	274	9	1
アルバータ	167	8	0
ブリティッシュコロンビア	9 [^]	0	0
ユーコン	1 [^]	0	0
合計	546	21	2

* 陽性の確定にはさらに検査を必要とする。

[^] 地域外での感染と思われる症例。

^{^^} 9月3日に卒中で死亡した患者と9月5日に誤嚥性肺炎で死亡した患者の2名は、ウエストナイルウイルスの「陽性疑い患者」に含まれている。

(ヘルスカナダホームページ <http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgspsp/wmv-vwn/> より)

シンガポールでの重症急性呼吸器症候群(SARS)

WHO/CSR 2003年9月10日

シンガポールで、SARSコロナウイルス(CoV)が検査により確定した患者1名が発生した。この患者は、シンガポールにあるウイルス学研究所に勤務する27歳の医科大学院生である。この患者は発熱を起し、入院隔離されたが、現在解熱している。接触者調査が行われているが、この患者に関連した二次感染例は確認されていない。

この例は軽症であり、隔離され、二次感染患者が発生しなかったことから、公衆衛生上の心配はないとみなされる。

今回の例は、検査室内の事故による感染により発生したことが示唆されるため、WHOは、来月ジュネーブで開かれるSARS科学諮問会議で、検査にともなう安全性の問題に取り組む予定である。

結論として、SARSに関し、シンガポールは旅行者にとって依然として安全な地域であり、シンガポールから他の国へ出発する渡航者からの感染リスクもない。

米国フロリダのPalm beach郡での局地的なマラリア発生

Health Canada 2003年9月8日

ヘルスカナダは現在、フロリダ州のPalm Beach郡での局地的なマラリア発生の情報を収集している。7月12日から8月19日の間に、国内で感染し、検査で確認された三日熱マラリア患者7名が報告された。Palm Beach郡の保健当局は蚊の対策を積極的に行い、また、蚊が媒介する疾患についての予防と制圧についての啓発活動を郡全体で行っている。8月19日以来、新規患者の発生報告はないが、Palm Beach郡住民に対し、蚊の刺咬を避ける保健注意報は現在も出されている。最新情報はPalm Beach郡保健省ホームページを参照のこと。

(<http://www.doh.state.fl.us/chdpalmbeach/press/2003/aug/augnews122003.html>)

1940年代後半から、フロリダではマラリアは風土病として常在していた。農業治水の改善や家屋の改善、蚊の対策により、フロリダではマラリアの発生が見られなくなり、現在も存在しない。しかし、マラリアを感染伝播することのできる蚊は多数存在しているため、マラリアが流行している国からの旅行者や移民が流入することで、特に晩夏に、局地的な感染伝播の可能性がある。



感染症の話

百日咳

百日咳 (pertussis, whooping cough) は、特有のけいれん性の咳発作 (痙咳発作) を特徴とする急性気道感染症である。母親からの免疫 (経胎盤移行抗体) が期待できないため、乳児期早期から罹患し、1歳以下の乳児、ことに生後6カ月以下では死に至る危険性も高い。百日咳ワクチンを含むDPT三種混合ワクチン接種 (ジフテリア・百日咳・破傷風) は我が国を含めて世界各国で実施されており、その普及とともに各国で百日咳の発生数は激減している。しかし、ワクチン接種を行っていない人での発病はわが国でも見られており、世界各国でいまだ多くの流行が発生している。1990年にロシアから始まったジフテリアの流行同様、ワクチン接種が滞れば再び流行の可能性のある感染症である。

疫学

百日咳は世界的に見られる疾患で、いずれの年齢でもかかるが、小児が中心となる。また、重症化しやすく、死亡者の大半を占めるのは1歳未満の乳児、ことに生後6カ月未満の乳児である。WHOの発表によれば、世界の百日咳患者数は年間2,000～4,000万人で、その約90%は発展途上国の小児であり、死亡数は約20～40万人とされている。

わが国における百日咳患者の届け出数 (伝染病予防法では届出伝染病として全例報告されることになっていた) は、ワクチン開始前には10万例以上あり、その約10%が死亡していた。百日咳 (P) ワクチンは1950年から予防接種法によるワクチンに定められ、単味ワクチンによって接種が開始された。1958年の法改正からはジフテリア (D) と混合のDP二種混合ワクチンが使われ、さらに1968 (昭和43) 年からは、破傷風 (T) を含めたDPT三種混合ワクチンが定期接種として広く使われるようになった。これらのワクチンの普及とともに患者の報告数は減少し、1971年には206例、1972年には269例と、この時期に、日本は世界で最も罹患率の低い国のひとつとなった。しかし、1970年代から、DPTワクチン、ことに百日咳ワクチン (全菌体ワクチン) によるとされる脳症などの重篤な副反応発生が問題となり、1975年2月に百日咳ワクチンを含む予防接種は一時中止となった。同年4月に、接種開始年齢を引き上げるなどして再開されたが、接種率の低下は著しく、あるいはDPTでなくDTの接種を行う地区も多く見られた。その結果、1979年には年間の届け出数が約13,000例、死亡者数は約20～30例に増えた。

その後、わが国において百日咳ワクチンの改良研究が急いで進められ、それまでの全菌体ワクチン (whole cell vaccine) から無細胞ワクチン (acellular vaccine) が開発された。1981年秋からこの無細胞 (精製、とも表現する) 百日咳ワクチン (aP) を含むDPT三種混合ワクチン (DTaP) が導入され、その結果、再びDPTの接種率は向上した。また、1981年7月から「百日せき様疾患」として、定点医療機関 (以下、定点) からの報告による感染症発生動向調査が開始され、伝染病予防法に基づく届出数の約20倍の患者数が報告されるようになった。1982年には全定点からの報告数が23,675 (定点当たり12.59) で、その後は約4年毎に増加するパターンを示しながら減少した。1994年10月からはDPTワクチンの接種開始年齢がそれまでの2歳から3カ月に引き下げられた。1997年には報告数が2,708 (同1.12)、1998年には2,313 (同0.97) に減少した。1999年4月施行の感染症法の元では「百日咳」として定点把握疾患に分類され、全国約3,000の小児科定点から報告されており、2000年3,787例 (同1.29)、2001年1,800例 (同0.60)、2002年1,488例 (同0.49) であ

る。また、この報告数を元に算出した年間罹患数の推計値は2000年2.8万人、2001年1.5万人である(厚生科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論の開発に関する研究」主任研究者:岡部信彦、分担研究者:永井正規)。

病原体

グラム陰性桿菌である百日咳菌(*Bordetella pertussis*)の感染によるが、一部はパラ百日咳菌(*Bordetella parapertussis*)も原因となる。感染経路は、鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫感染、および接触感染である。

百日咳の発症機序は未だ解明されていないが、百日咳菌の有する種々の生物活性物質の一部が、病原因子として発症に関与すると考えられている。病原因子と考えられるものとしては、線維状血球凝集素(FHA)、パータクチン(69KD外膜蛋白)、凝集素(アグルチノーゲン2、3)などの定着因子と、百日咳毒素(PT)、気管上皮細胞毒素、アデニル酸シクラーゼ、易熱性皮膚壊死毒素などの毒素がある。

臨床症状

臨床経過は3期に分けられる。

- 1)カタル期(約2週間持続):通常7～10日間程度の潜伏期を経て、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- 2)痙咳期(約2～3週間持続):次第に特徴ある発作性けいれん性の咳(痙咳)となる。これは短い咳が連続的に起こり(スタッカート)続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出る(笛声:whoop)。このような咳嗽発作がくり返すことをレプリーゼと呼ぶ。しばしば嘔吐を伴う。発熱はないか、あっても微熱程度である。息を詰めて咳をするため、顔面の静脈圧が上昇し、顔面浮腫、点状出血、眼球結膜出血、鼻出血などが見られることもある。非発作時は無症状であるが、何らかの刺激が加わると発作が誘発される。また、夜間の発作が多い。年令が小さいほど症状は非定型的であり、乳児期早期では特徴的な咳がなく、単に息を止めているような無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止と進展することがある。合併症としては肺炎の他、発症機序は不明であるが脳症も重要な問題で、特に乳児で注意が必要である。1992～1994年の米国での調査によると、致命率は全年齢児で0.2%、6カ月未満児で0.6%とされている。
- 3)回復期(2,3週～):激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなるが、その後も時折折れた頃に発作性の咳が出る。全経過約2～3カ月で回復する。

成人の百日咳では咳が長期にわたって持続するが、典型的な発作性の咳嗽を示すことはなく、やがて回復に向かう。軽症で診断が見のがされやすいが、菌の排出があるため、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要である。これらの点から、成人における百日咳の免疫状況に今後注意していく必要がある。

また、アデノウイルス、マイコプラズマ、クラミジアなどの呼吸器感染症でも同様の発作性の咳嗽を示すことがあり、鑑別診断上注意が必要である。

臨床検査では、小児の場合には白血球数が数万/mm³に増加することもあり、分画ではリンパ球の異常増多がみられる。しかし、赤沈やCRPは正常範囲か軽度上昇程度である。

病原診断

確定診断のためには、鼻咽頭からの百日咳菌の分離同定が必要である。培養には、ボルデ・ジャング(Bordet Gengou)培地やCSM(cyclodextrin solid medium)などの特殊培地を要する。菌はカタル期後半に検出され、痙咳期に入ると検出されにくくなるため、実際には菌の分離同定は困難なことが多い。血清診断では百日咳菌凝集素価の測定が行われることが多く、東浜株および山口株を用い、ペア血清(2週間以上の間隔)で4倍以上の抗体価上昇があるか、シングル血清で40倍以上であれば診断価値は高い。ただし、凝集素を含むタイプのワクチン接種者では、シングル血清での判断に注意を要する。また最近では、ELISA法による抗PT抗体、抗FHA抗体の測定も時に行われる。研究室レベルでは菌の染色体DNA解析、PCR法などによる病原体遺伝子の検出も行われる。

治療・予防

百日咳菌に対する治療として、エリスロマイシン、クラリスロマイシンなどのマクロライド系抗菌薬が用いられる。これらは特にカタル期では有効である。通常、患者からの菌の排出は咳の開始から約3週間持続するが、エリスロマイシンなどによる適切な治療により、服用開始から5日後には菌の分離はほぼ陰性となる。しかし、再排菌などを考慮すると、抗生剤の投与期間として2週間は必要であると思われる。痙咳に対しては鎮咳去痰剤、場合により気管支拡張剤などが使われる。全身的な水分補給が必要なこともあり、また、重症例では抗PT抗体を期待してガンマグロブリン大量投与も行われる。

予防では、世界各国がEPIC(Expanded Program on Immunization: 拡大予防接種事業)ワクチンの一つとして、DPTワクチンの普及を強力に進めている。わが国で現在使われている無細胞百日咳ワクチンを含むDPT三種混合ワクチンは、第1期初回として生後3～90カ月(標準的には生後3～12カ月)に3回、及びその12～18カ月後に追加接種を行い、第2期として11～12歳に、百日咳を除いたDT二種混合ワクチンによる接種が行われている。わが国の無細胞百日咳ワクチンの有効成分はPTとFHAが主であるが、その量比率はメーカーにより異なっている。さらに、それら主成分以外に凝集原、パーティクルを含むものもある。接種後の全身および局所の副反応については、従来の全菌体ワクチンに比較して格段に少なくなっている。

また、年齢、予防接種歴に関わらず、家族や濃厚接触者にはエリスロマイシン、クラリスロマイシンなどを10～14日間予防投与する。

感染症法における取り扱い

百日咳は4類感染症定点把握疾患であり、全国約3,000の小児科定点から毎週報告がなされている。報告のための基準は以下の通りになっている。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を全て満たすもの

1. 2週間以上持続する咳嗽
2. 以下のいずれかの要件のうち少なくとも一つを満たすもの
 - ・ スタッカートやレプリーゼを伴う咳嗽発作
 - ・ 新生児や乳児で、他に明らかな原因がない咳嗽後の嘔吐または無呼吸発作

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

学校保健法での取り扱い

第二種の伝染病に定められており、登校基準は以下のとおりである。

特有の咳が消失するまで出席停止となる。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。

(国立感染症研究所感染症情報センター 多田有希・岡部信彦)



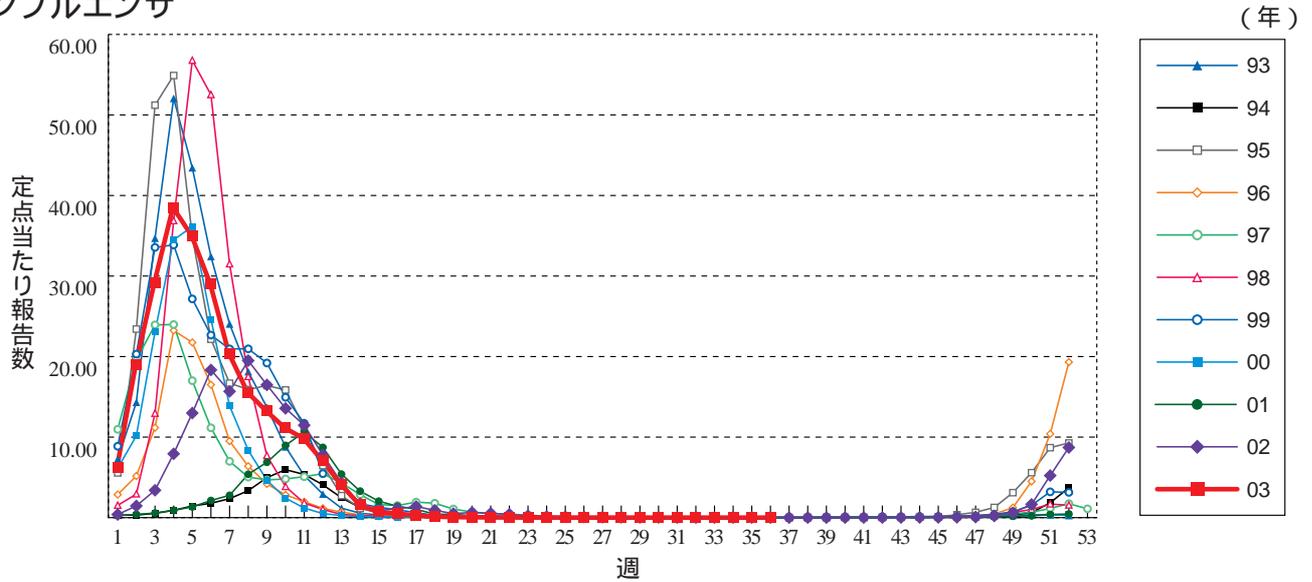
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

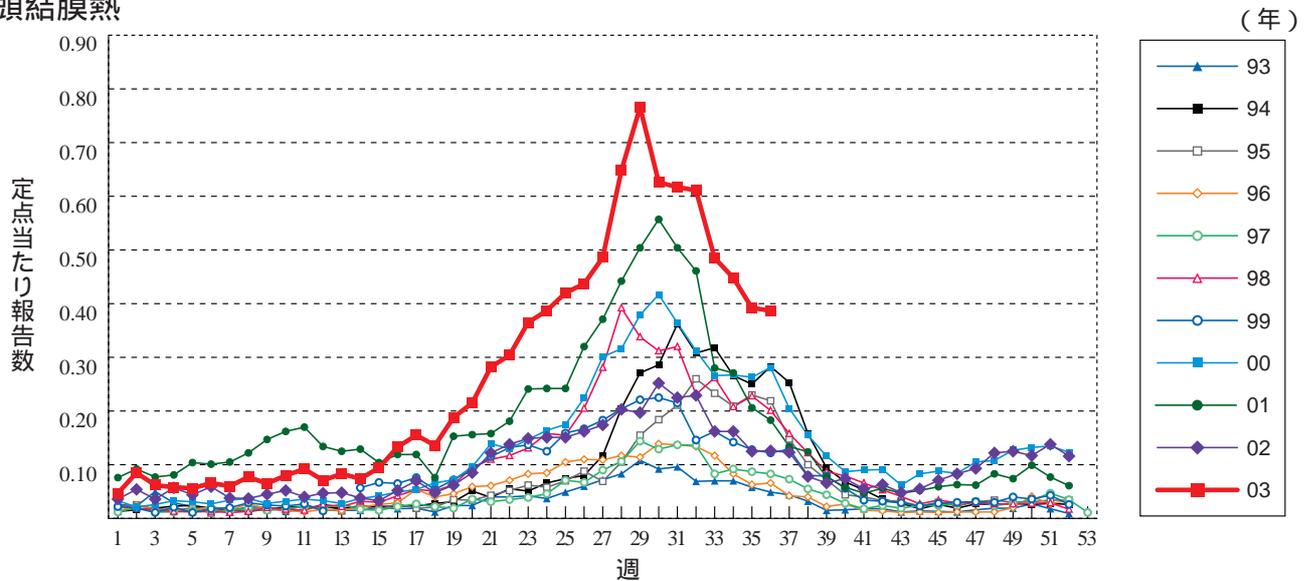
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(36週)

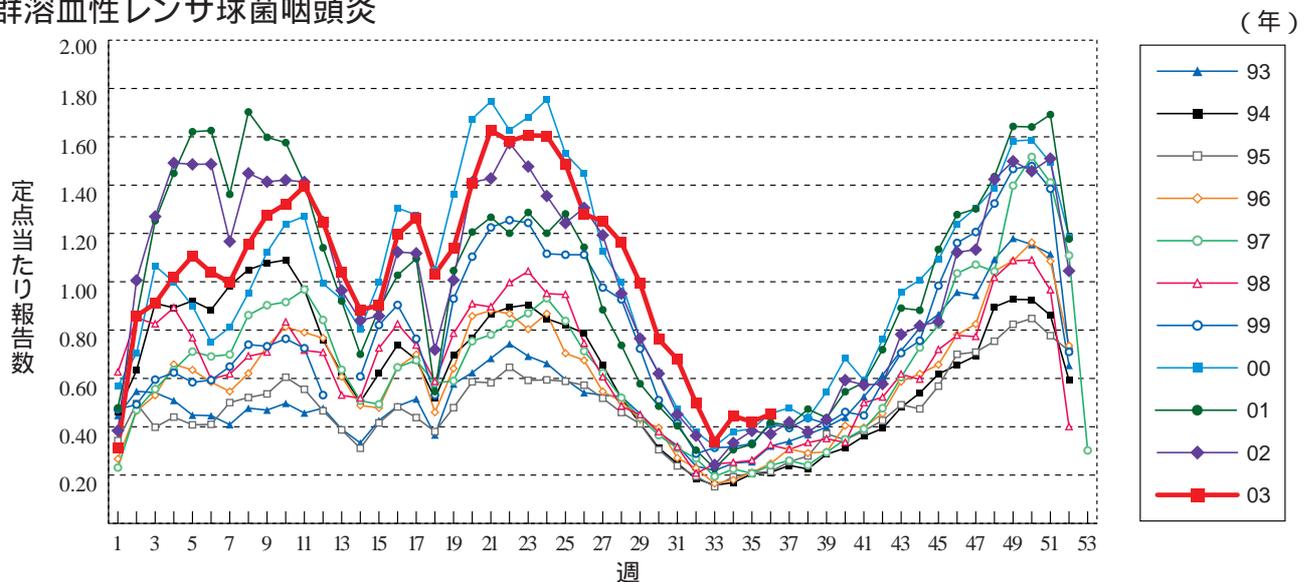
インフルエンザ



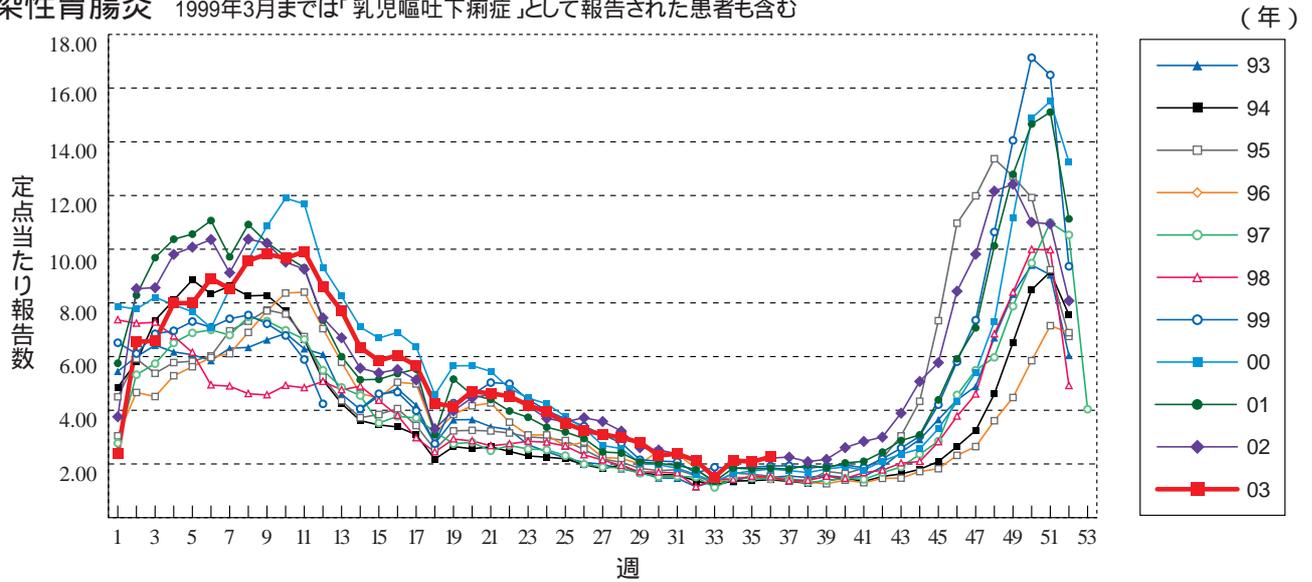
咽頭結膜熱



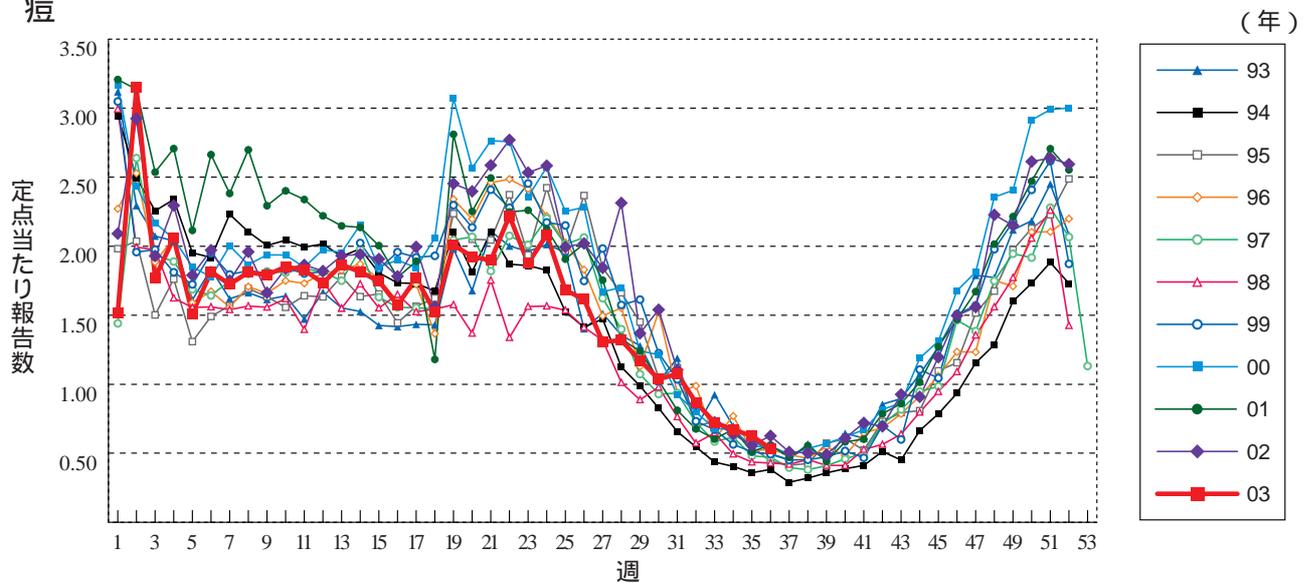
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



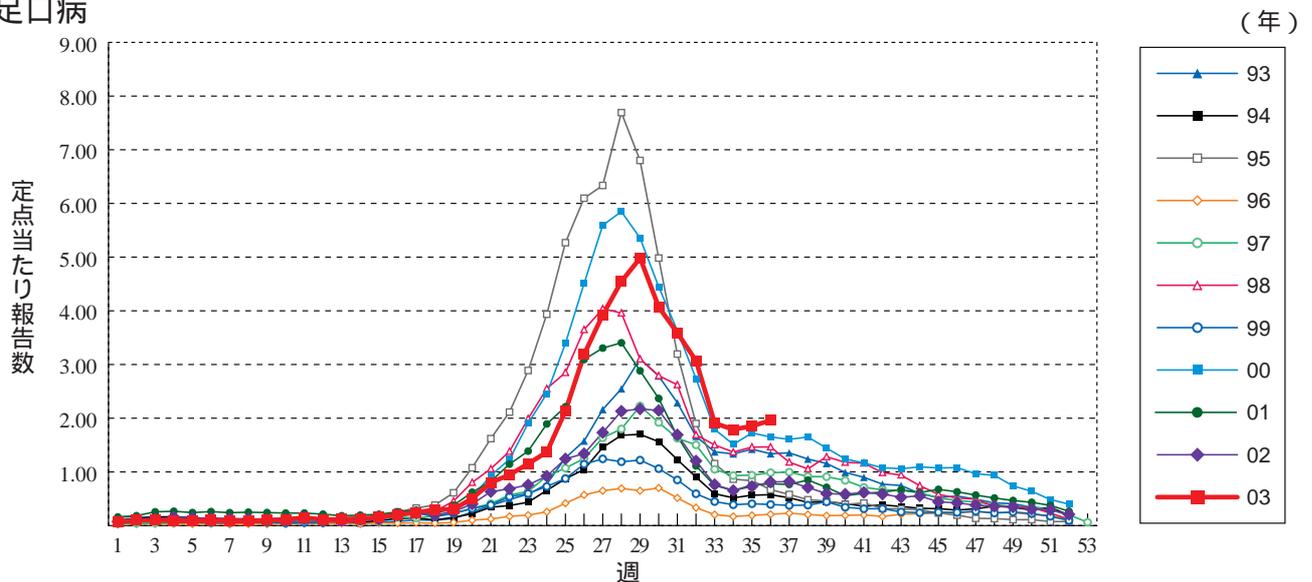
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



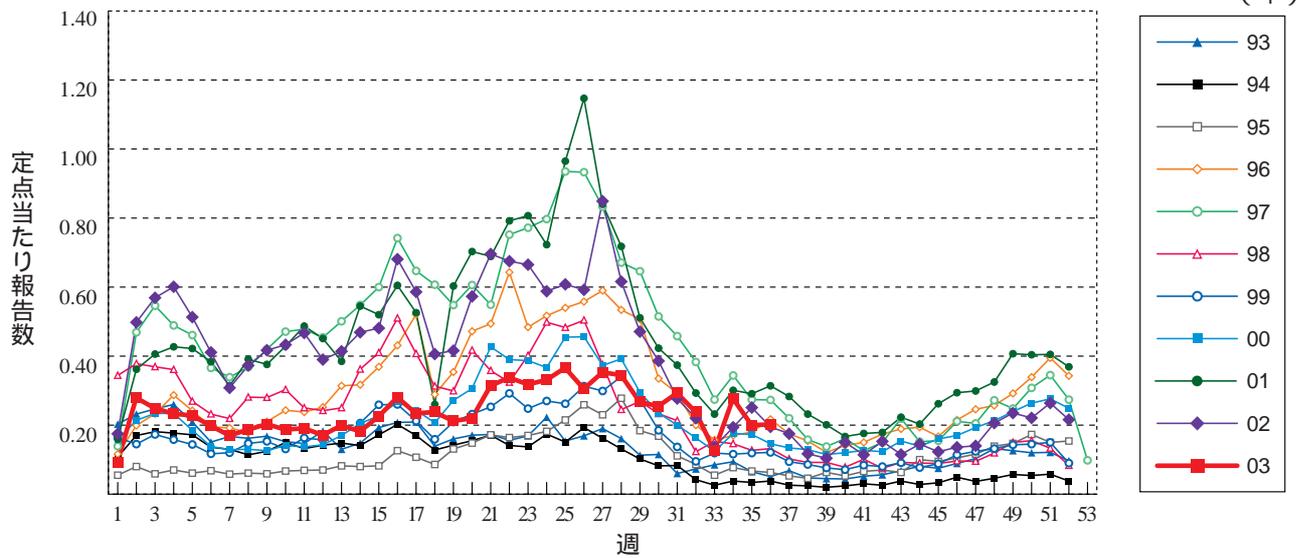
水痘



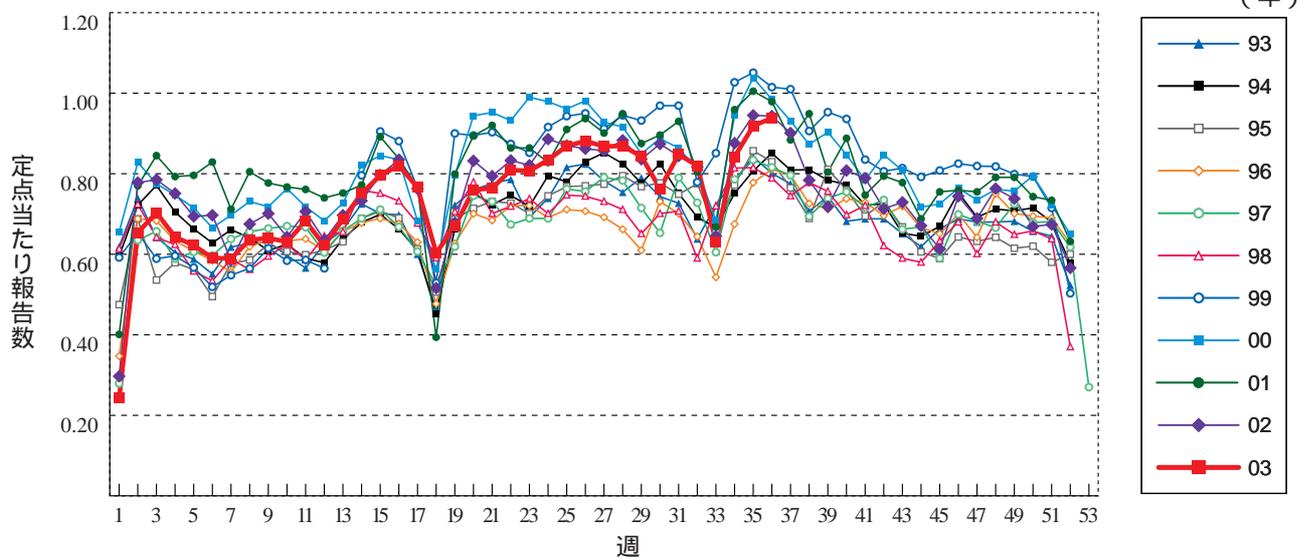
手足口病



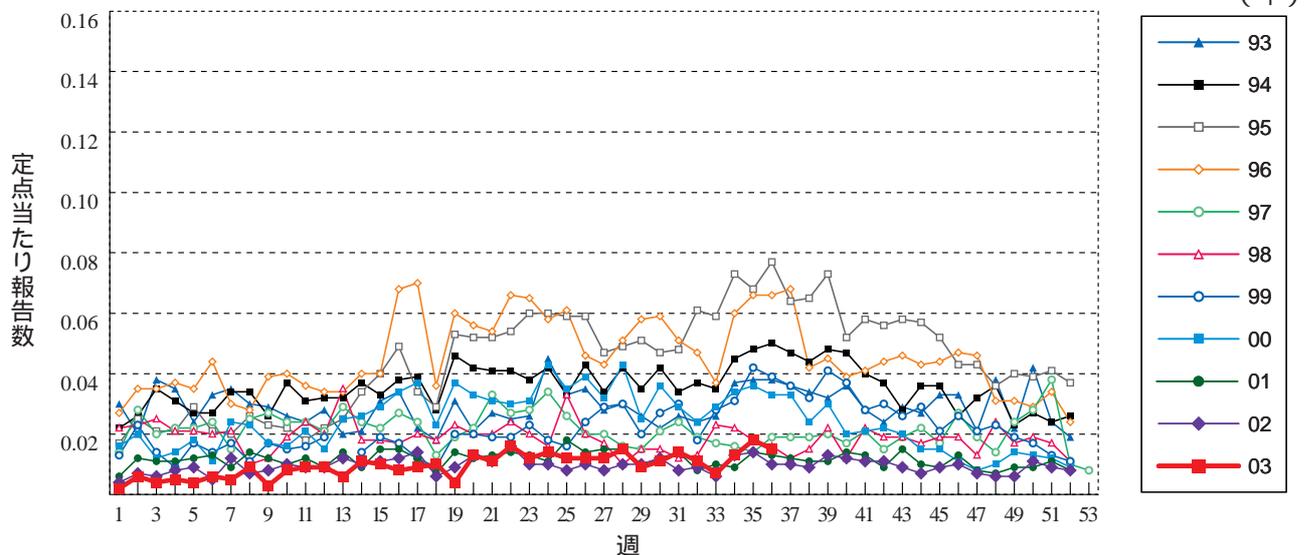
伝染性紅斑



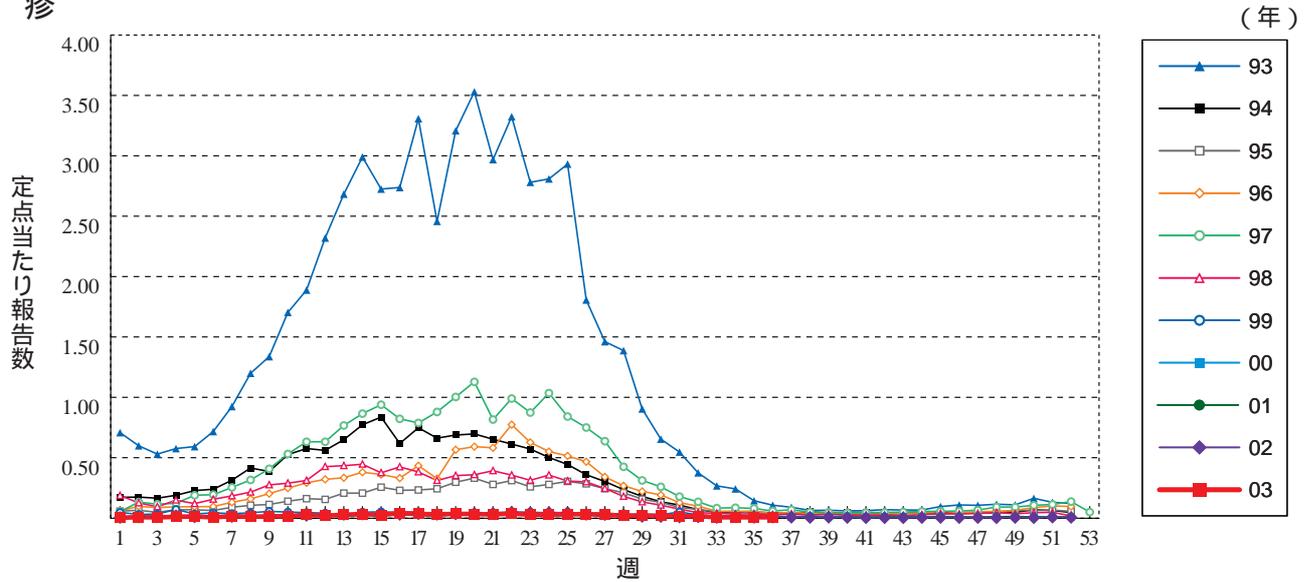
突発性発疹



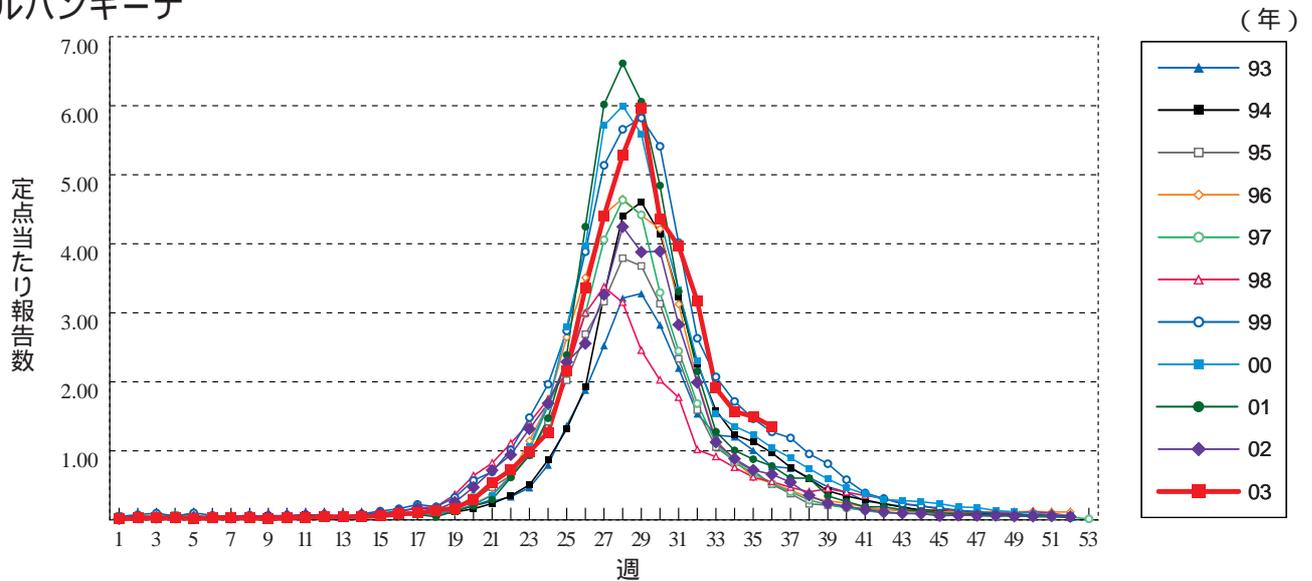
百日咳



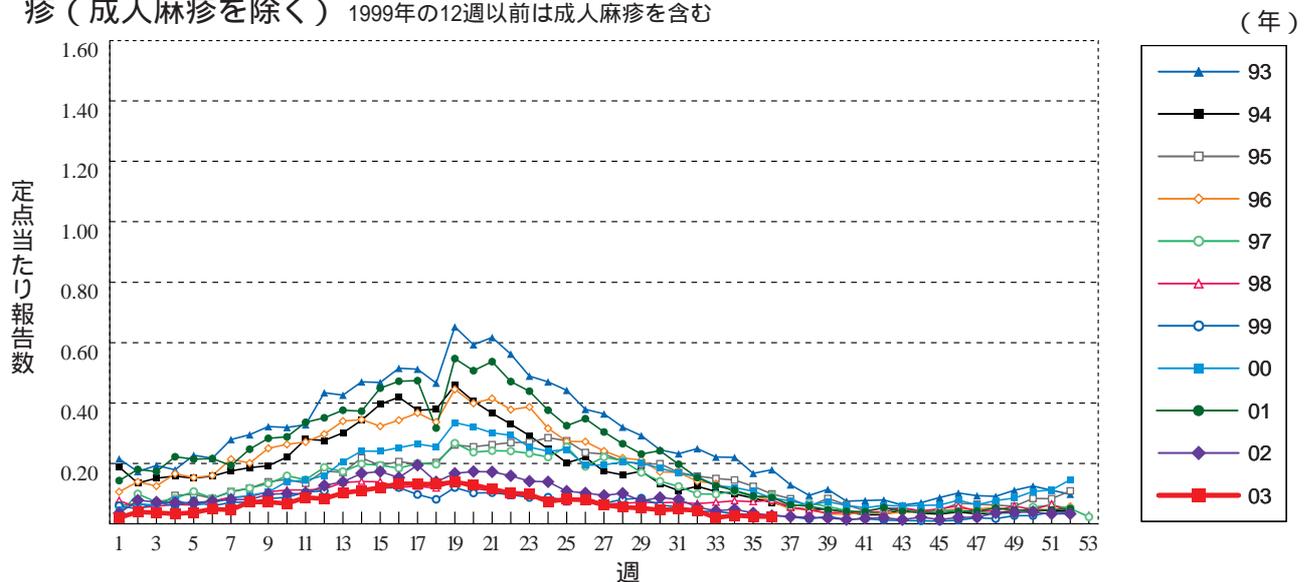
風 疹



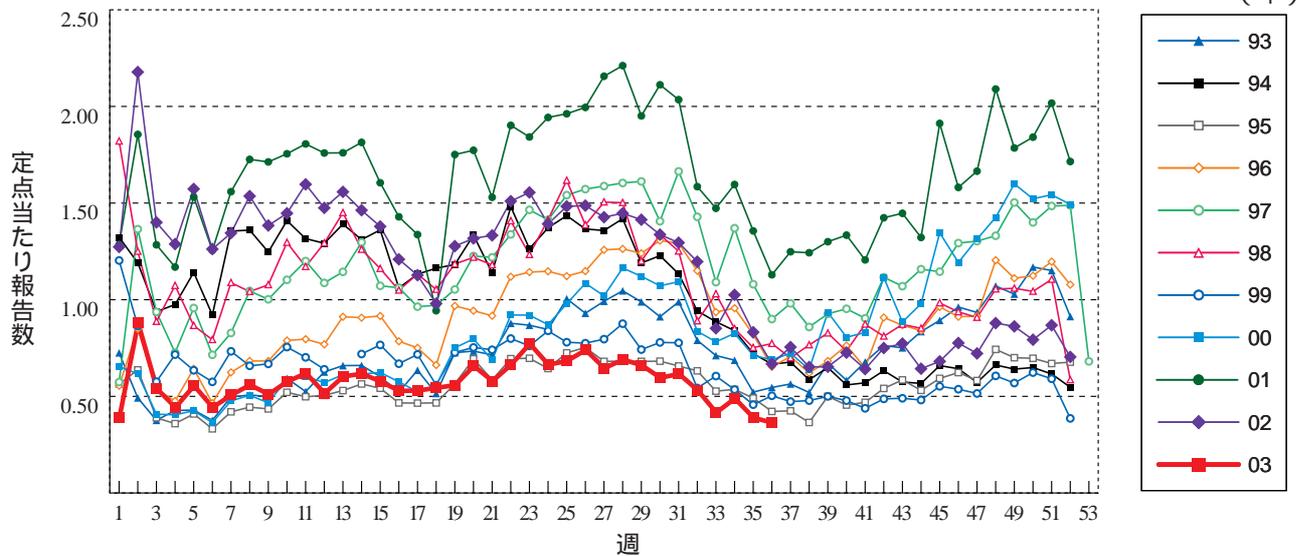
ヘルパンギーナ



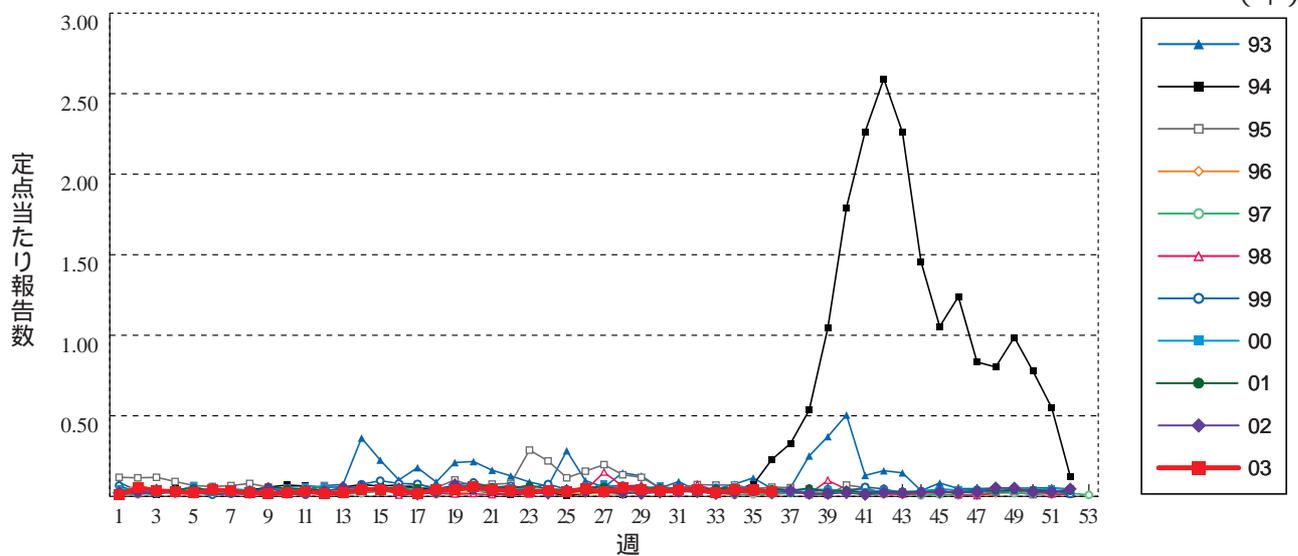
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



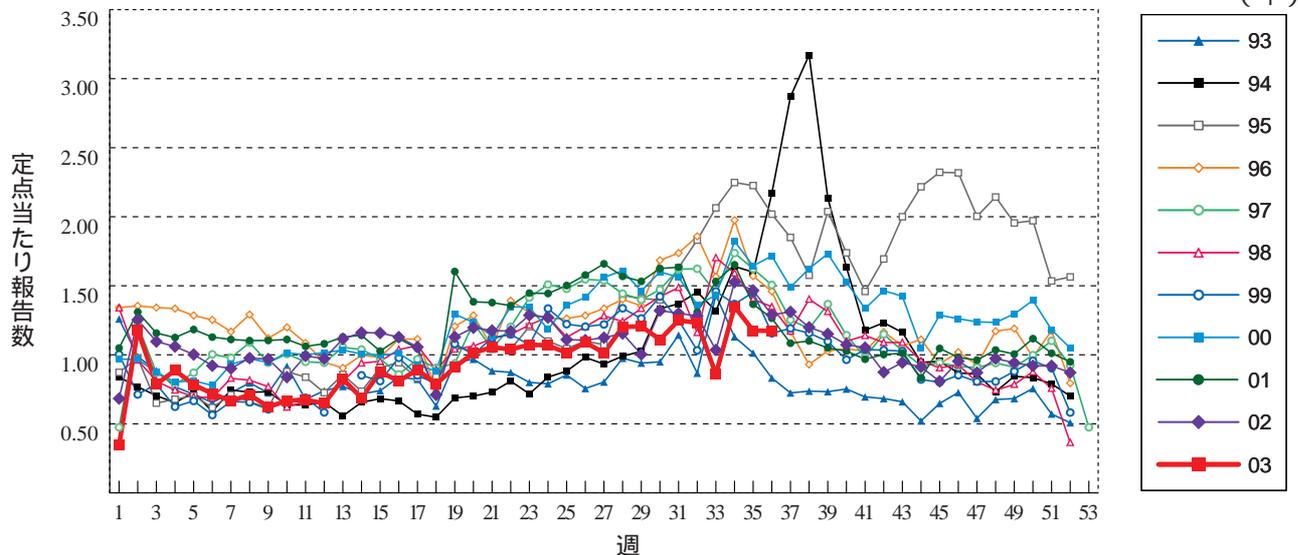
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

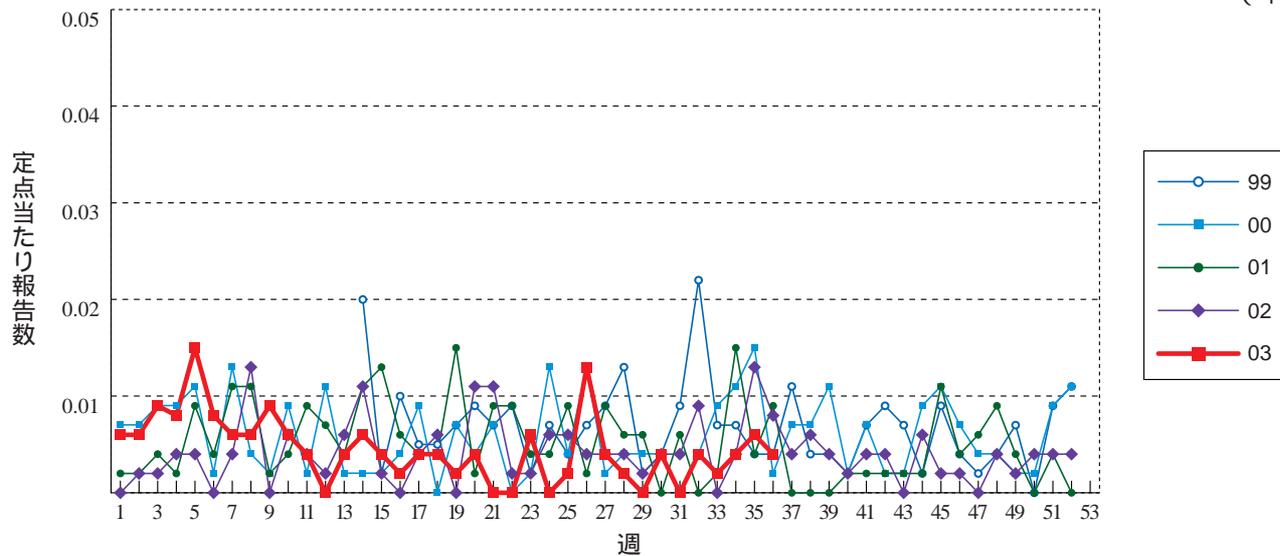


流行性角結膜炎



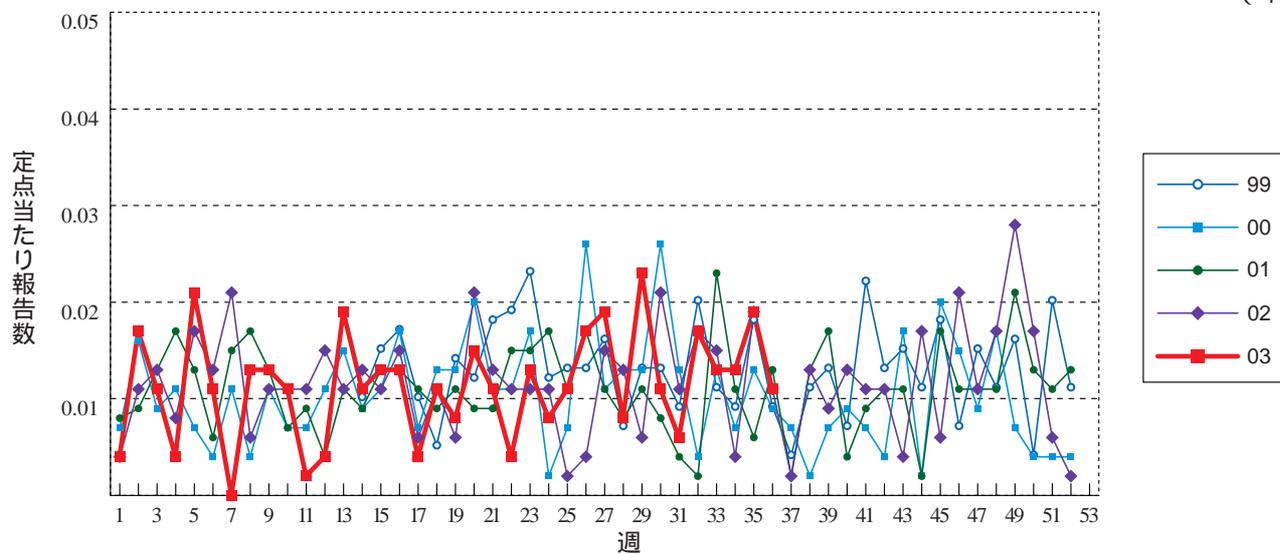
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



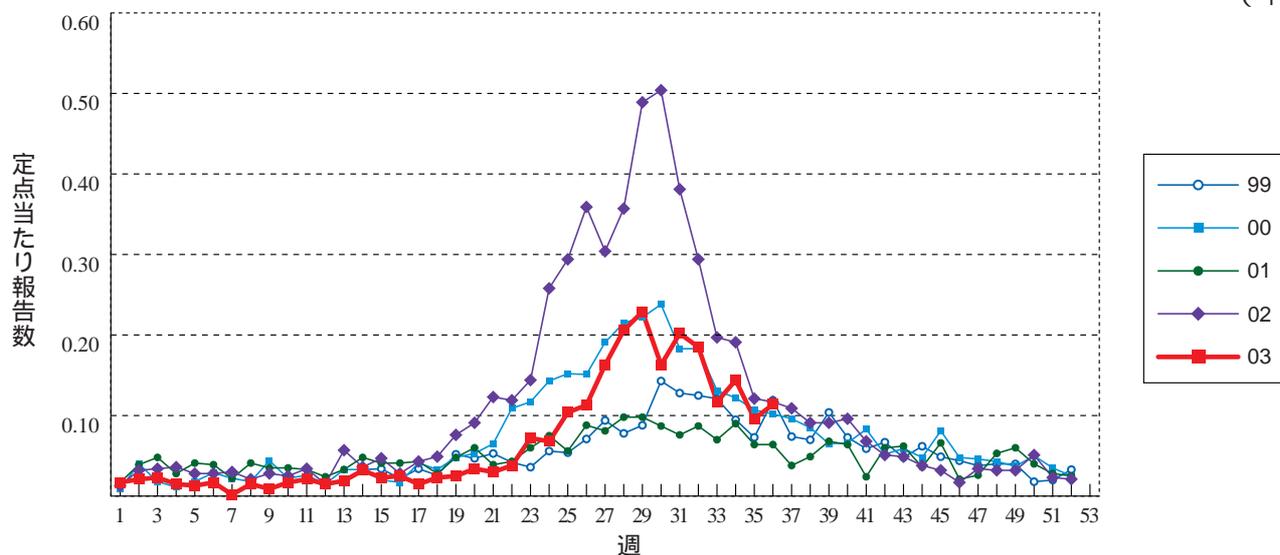
細菌性髄膜炎

(年)



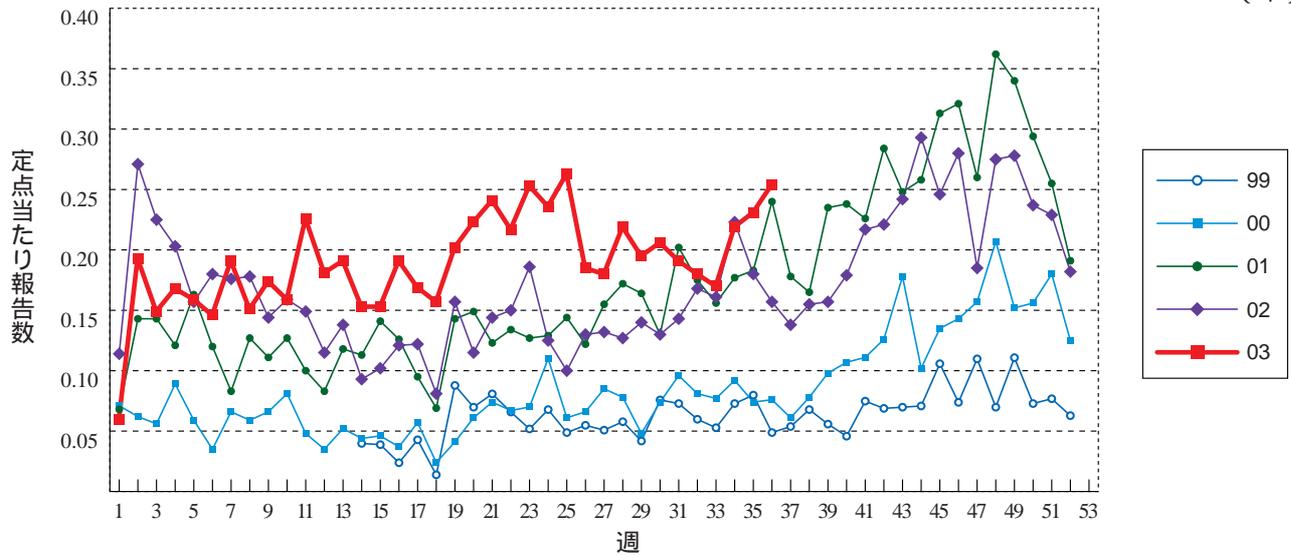
無菌性髄膜炎

(年)



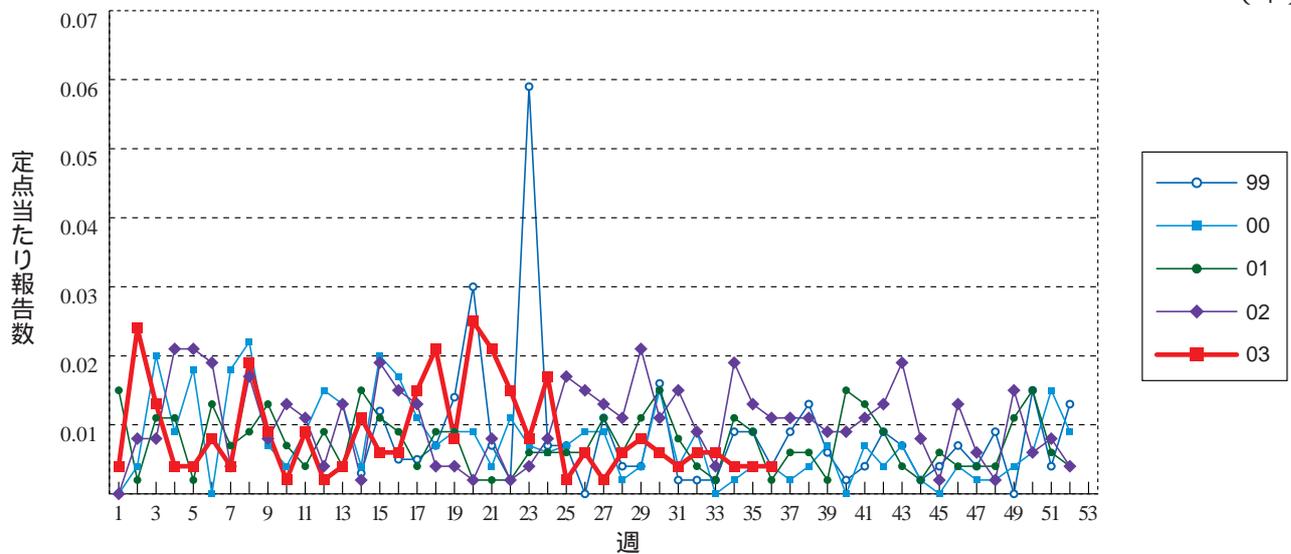
マイコプラズマ肺炎

(年)



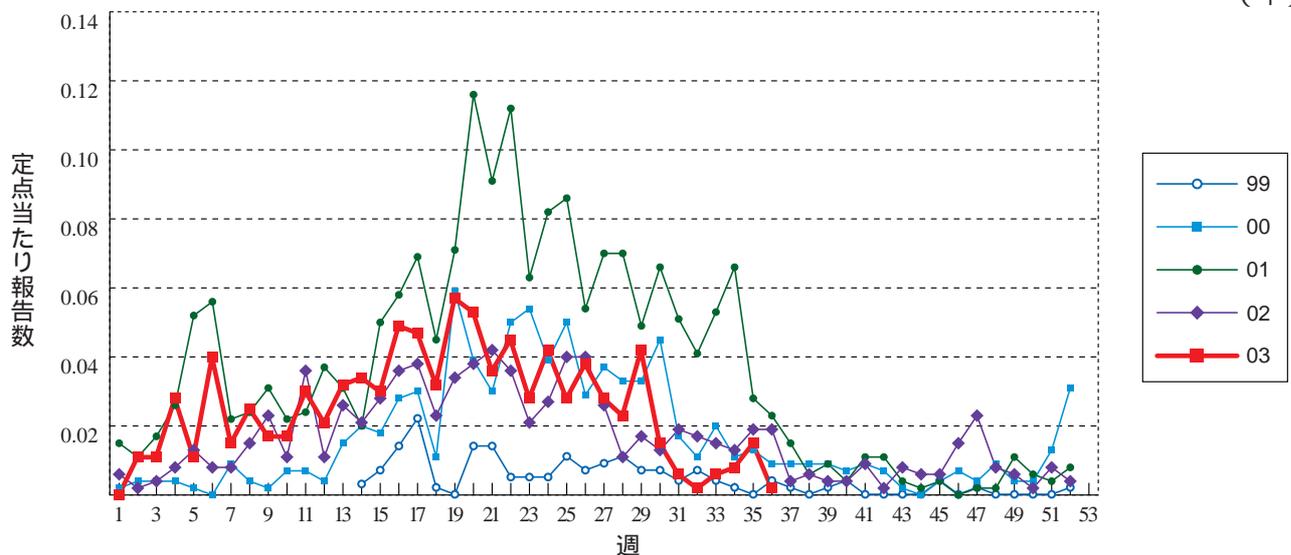
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





36週のデータ

注)表中の報告数は9月11日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年36週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	8	312	1	39	-	22	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19	-	1	-	1	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	68	-	15	-	4	-	4
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	21	-	-	-	-	4	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	1	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	14	-	2	-	1	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	12	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	3	-	2	-	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	3	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	22	-	2	-	1	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年36週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	120	1785	5	343	-	14	-	-	-	34	-	-	3	516
北海道	-	-	-	-	1	28	-	5	-	13	-	-	-	1	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	1	40	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12
宮城県	-	-	-	-	4	31	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
秋田県	-	-	-	-	4	45	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	1	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	1	15	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	2	20	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	-	3	8	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	-	22	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
埼玉県	-	-	-	-	7	54	1	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
千葉県	-	-	-	-	2	69	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
東京都	-	-	-	-	5	122	2	84	-	-	-	-	-	1	-	-	-	52
神奈川県	-	-	-	-	4	43	-	32	-	-	-	-	-	4	-	-	-	26
新潟県	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	9	89	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
福井県	-	-	-	-	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	10	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	1	30	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
岐阜県	-	-	-	-	-	57	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
静岡県	-	-	-	-	2	27	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
愛知県	-	-	-	-	6	58	-	31	-	1	-	-	-	2	-	-	-	20
三重県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	6	47	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	-	16	118	1	50	-	-	-	-	-	8	-	-	-	52
兵庫県	-	-	-	-	13	123	1	6	-	-	-	-	-	4	-	-	-	27
奈良県	-	-	-	-	1	10	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
和歌山県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	7
鳥取県	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
島根県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	3	76	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
広島県	-	-	-	-	-	24	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	20
山口県	-	-	-	-	3	32	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	1	13
徳島県	-	-	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	1	23	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	21	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
高知県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	8	185	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51
佐賀県	-	-	-	-	1	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
長崎県	-	-	-	-	1	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	2	82	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮崎県	-	-	-	-	1	30	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
鹿児島県	-	-	-	-	3	40	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	3	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年36週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	6	-	-	-	5	-	77	-	42	8	595	-	1	1	70	-	-
北海道	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	6	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	18	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	12	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	1	14	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	26	-	-	-	1	-	-
東京都	-	1	-	-	-	4	-	11	-	4	3	236	-	-	-	25	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	47	-	-	-	10	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	10	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	16	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	35	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	11	-	-	1	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	6	-	1	-	52	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	13	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	7	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	6	-	-	-	2	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年36週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ボツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	16	-	1	-	-	-	135	1	22	2	32	-	-	-	-	7	334
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
東京都	1	4	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	51
神奈川県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	19
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	54
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	10
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
広島県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	8
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	14
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	9	-	-	-	-	-	9
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年36週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	45	-	43	-	-	-	-	-	-	-	-	52	-	4	3	99	
北海道	-	1	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
栃木県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
群馬県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
埼玉県	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
千葉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東京都	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	1	11	
神奈川県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	5	
新潟県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
石川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
山梨県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	
愛知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9	
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
広島県	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
山口県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
鹿児島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年36週

	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年36週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	9	0.00	1179	0.39	1376	0.45	6886	2.26	1627	0.53	5970	1.96	614	0.20	2856	0.94	46	0.02
北海道	-	-	13	0.09	112	0.77	154	1.06	70	0.48	295	2.03	81	0.56	105	0.72	2	0.01
青森県	-	-	6	0.14	20	0.48	51	1.21	23	0.55	257	6.12	4	0.10	17	0.40	1	0.02
岩手県	-	-	2	0.05	13	0.34	46	1.21	17	0.45	214	5.63	2	0.05	24	0.63	-	-
宮城県	-	-	9	0.15	21	0.36	145	2.46	40	0.68	151	2.56	30	0.51	70	1.19	-	-
秋田県	-	-	-	-	12	0.34	67	1.91	14	0.40	163	4.66	2	0.06	14	0.40	-	-
山形県	-	-	15	0.50	37	1.23	65	2.17	16	0.53	79	2.63	2	0.07	29	0.97	-	-
福島県	-	-	10	0.21	27	0.56	109	2.27	34	0.71	197	4.10	-	-	50	1.04	2	0.04
茨城県	-	-	19	0.26	33	0.45	109	1.47	63	0.85	76	1.03	3	0.04	42	0.57	-	-
栃木県	-	-	4	0.09	8	0.17	96	2.09	11	0.24	86	1.87	2	0.04	46	1.00	-	-
群馬県	-	-	18	0.29	29	0.47	109	1.76	67	1.08	117	1.89	14	0.23	44	0.71	3	0.05
埼玉県	-	-	50	0.31	82	0.51	346	2.16	75	0.47	203	1.27	40	0.25	195	1.22	6	0.04
千葉県	-	-	13	0.10	75	0.60	229	1.82	75	0.60	273	2.17	41	0.33	127	1.01	4	0.03
東京都	-	-	27	0.19	47	0.33	254	1.79	41	0.29	151	1.06	27	0.19	94	0.66	2	0.01
神奈川県	3	0.01	64	0.31	67	0.32	370	1.79	91	0.44	311	1.50	48	0.23	226	1.09	3	0.01
新潟県	-	-	14	0.23	38	0.63	153	2.55	49	0.82	274	4.57	20	0.33	51	0.85	-	-
富山県	-	-	6	0.21	25	0.86	122	4.21	21	0.72	58	2.00	16	0.55	28	0.97	-	-
石川県	-	-	3	0.10	11	0.38	108	3.72	12	0.41	27	0.93	9	0.31	18	0.62	-	-
福井県	-	-	2	0.09	10	0.45	82	3.73	16	0.73	34	1.55	12	0.55	21	0.95	-	-
山梨県	1	0.02	3	0.12	7	0.28	23	0.92	13	0.52	53	2.12	1	0.04	9	0.36	-	-
長野県	-	-	65	1.18	33	0.60	150	2.73	33	0.60	269	4.89	17	0.31	47	0.85	-	-
岐阜県	-	-	52	0.98	7	0.13	58	1.09	15	0.28	78	1.47	23	0.43	48	0.91	2	0.04
静岡県	-	-	63	0.73	20	0.23	226	2.63	39	0.45	228	2.65	22	0.26	105	1.22	3	0.03
愛知県	-	-	46	0.25	102	0.56	344	1.89	109	0.60	241	1.32	64	0.35	191	1.05	1	0.01
三重県	-	-	26	0.58	34	0.76	167	3.71	23	0.51	28	0.62	7	0.16	69	1.53	-	-
滋賀県	-	-	57	1.78	15	0.47	49	1.53	8	0.25	20	0.63	1	0.03	38	1.19	-	-
京都府	-	-	13	0.17	26	0.34	236	3.11	24	0.32	65	0.86	4	0.05	42	0.55	2	0.03
大阪府	-	-	84	0.43	71	0.36	445	2.28	78	0.40	148	0.76	16	0.08	161	0.83	2	0.01
兵庫県	-	-	60	0.47	37	0.29	394	3.08	63	0.49	229	1.79	25	0.20	120	0.94	1	0.01
奈良県	1	0.02	24	0.69	10	0.29	72	2.06	19	0.54	29	0.83	5	0.14	22	0.63	1	0.03
和歌山県	-	-	7	0.23	9	0.29	31	1.00	12	0.39	25	0.81	1	0.03	30	0.97	1	0.03
鳥取県	-	-	20	1.05	23	1.21	100	5.26	9	0.47	73	3.84	2	0.11	21	1.11	-	-
島根県	-	-	5	0.22	3	0.13	39	1.70	5	0.22	50	2.17	3	0.13	22	0.96	-	-
岡山県	-	-	7	0.13	16	0.30	130	2.41	37	0.69	128	2.37	-	-	35	0.65	-	-
広島県	-	-	43	0.57	36	0.48	178	2.37	55	0.73	98	1.31	15	0.20	67	0.89	1	0.01
山口県	-	-	29	0.59	38	0.78	176	3.59	46	0.94	154	3.14	6	0.12	61	1.24	-	-
徳島県	-	-	9	0.39	2	0.09	46	2.00	10	0.43	19	0.83	-	-	20	0.87	-	-
香川県	-	-	14	0.44	5	0.16	95	2.97	17	0.53	15	0.47	-	-	29	0.91	-	-
愛媛県	-	-	29	0.74	7	0.18	112	2.87	21	0.54	124	3.18	1	0.03	45	1.15	-	-
高知県	-	-	42	1.35	11	0.35	45	1.45	4	0.13	72	2.32	1	0.03	24	0.77	-	-
福岡県	-	-	53	0.44	77	0.64	383	3.19	87	0.73	240	2.00	12	0.10	145	1.21	2	0.02
佐賀県	-	-	10	0.43	20	0.87	35	1.52	9	0.39	34	1.48	-	-	41	1.78	1	0.04
長崎県	-	-	19	0.43	12	0.27	49	1.11	21	0.48	70	1.59	2	0.05	25	0.57	-	-
熊本県	-	-	26	0.53	19	0.39	161	3.29	21	0.43	151	3.08	1	0.02	55	1.12	-	-
大分県	-	-	40	1.11	20	0.56	140	3.89	30	0.83	110	3.06	-	-	42	1.17	1	0.03
宮崎県	-	-	30	0.81	40	1.08	156	4.22	45	1.22	37	1.00	13	0.35	62	1.68	2	0.05
鹿児島県	2	0.02	28	0.47	9	0.15	215	3.64	24	0.41	190	3.22	3	0.05	61	1.03	-	-
沖縄県	2	0.03	-	-	-	-	16	0.47	15	0.44	26	0.76	16	0.47	18	0.53	3	0.09

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年36週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	24	0.01	4127	1.36	73	0.02	1108	0.36	17	0.03	748	1.17	2	0.00	5	0.01	54	0.11
北海道	-	-	469	3.23	2	0.01	50	0.34	-	-	32	1.10	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	116	2.76	1	0.02	19	0.45	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	74	1.95	2	0.05	15	0.39	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
宮城県	2	0.03	82	1.39	-	-	13	0.22	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	61	1.74	1	0.03	7	0.20	-	-	3	0.43	-	-	-	-	1	0.14
山形県	-	-	58	1.93	1	0.03	3	0.10	1	0.13	7	0.88	-	-	-	-	-	-
福島県	1	0.02	126	2.63	3	0.06	19	0.40	-	-	38	3.17	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	22	0.30	3	0.04	11	0.15	-	-	20	1.25	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	81	1.76	-	-	11	0.24	-	-	21	1.75	2	0.29	1	0.14	5	0.71
群馬県	-	-	32	0.52	-	-	50	0.81	-	-	33	2.36	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	142	0.89	1	0.01	45	0.28	-	-	29	0.78	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	-	-	109	0.87	5	0.04	47	0.37	3	0.09	26	0.76	-	-	-	-	1	0.08
東京都	2	0.01	118	0.83	5	0.04	21	0.15	-	-	20	1.43	-	-	-	-	-	-
神奈川県	4	0.02	262	1.27	-	-	70	0.34	1	0.02	49	1.17	-	-	1	0.08	1	0.08
新潟県	1	0.02	235	3.92	-	-	37	0.62	-	-	2	0.22	-	-	-	-	3	0.25
富山県	-	-	74	2.55	-	-	4	0.14	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	34	1.17	-	-	5	0.17	-	-	2	0.29	-	-	1	0.20	1	0.20
福井県	-	-	41	1.86	-	-	2	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	7	1.17
山梨県	-	-	27	1.08	-	-	5	0.20	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	220	4.00	1	0.02	8	0.15	1	0.09	12	1.09	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	62	1.17	1	0.02	14	0.26	-	-	13	1.08	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	91	1.06	-	-	47	0.55	-	-	24	1.20	-	-	-	-	-	-
愛知県	2	0.01	132	0.73	8	0.04	92	0.51	-	-	59	1.69	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	46	1.02	-	-	13	0.29	-	-	1	0.08	-	-	-	-	3	0.33
滋賀県	-	-	25	0.78	-	-	13	0.41	2	0.29	2	0.29	-	-	-	-	4	0.57
京都府	2	0.03	40	0.53	1	0.01	22	0.29	-	-	16	0.84	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	95	0.49	17	0.09	49	0.25	1	0.02	28	0.57	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.01	94	0.73	-	-	129	1.01	1	0.03	36	1.03	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	-	-	15	0.43	1	0.03	16	0.46	-	-	10	1.11	-	-	-	-	3	0.50
和歌山県	-	-	31	1.00	4	0.13	8	0.26	-	-	5	1.25	-	-	1	0.09	1	0.09
鳥取県	-	-	24	1.26	1	0.05	10	0.53	-	-	6	2.00	-	-	-	-	3	0.60
島根県	-	-	9	0.39	-	-	3	0.13	-	-	2	0.67	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	1	0.02	65	1.20	3	0.06	15	0.28	1	0.08	25	2.08	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	83	1.11	1	0.01	13	0.17	-	-	46	2.30	-	-	-	-	6	0.29
山口県	-	-	49	1.00	-	-	44	0.90	-	-	6	0.67	-	-	1	0.11	-	-
徳島県	-	-	38	1.65	-	-	5	0.22	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	46	1.44	-	-	11	0.34	1	0.33	5	1.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	140	3.59	-	-	9	0.23	-	-	24	3.43	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	42	1.35	-	-	25	0.81	-	-	8	2.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	172	1.43	7	0.06	28	0.23	2	0.08	34	1.31	-	-	-	-	2	0.13
佐賀県	-	-	55	2.39	-	-	14	0.61	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.02	50	1.14	3	0.07	17	0.39	1	0.13	8	1.00	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	64	1.31	1	0.02	15	0.31	1	0.11	31	3.44	-	-	-	-	6	0.40
大分県	-	-	64	1.78	-	-	11	0.31	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	165	4.46	-	-	20	0.54	1	0.25	15	3.75	-	-	-	-	3	0.43
鹿児島県	-	-	38	0.64	-	-	21	0.36	-	-	13	2.17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	3	0.09	9	0.26	-	-	2	0.06	-	-	7	0.70	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成15年36週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	120	0.25	2	0.00	1	0.00
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.33	-	-	-	-
岩手県	9	0.45	-	-	-	-
宮城県	3	0.25	1	0.08	1	0.08
秋田県	4	0.57	-	-	-	-
山形県	13	1.30	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.20	-	-	-	-
栃木県	3	0.43	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	6	0.46	-	-	-	-
東京都	3	0.12	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	7	0.58	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	1	0.10	-	-
長野県	2	0.18	-	-	-	-
岐阜県	2	0.40	-	-	-	-
静岡県	2	0.20	-	-	-	-
愛知県	5	0.38	-	-	-	-
三重県	2	0.22	-	-	-	-
滋賀県	1	0.14	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	11	0.73	-	-	-	-
兵庫県	2	0.17	-	-	-	-
奈良県	2	0.33	-	-	-	-
和歌山県	3	0.27	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	5	1.00	-	-	-	-
広島県	5	0.24	-	-	-	-
山口県	5	0.56	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	2	0.13	-	-	-	-
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	1	0.09	-	-	-	-
宮崎県	5	0.71	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第5巻、第36号 平成15年9月22日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。